

## ◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が3例(80歳代男性, 10歳代及び70歳代女性各1例)ありました。いずれも感染地域は国内です。本年の累積報告数は40例となりました。  
発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。  
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(20歳代男性)あり、症状は発熱、咳嗽、下痢及び肺炎です。感染地域は国内で、感染経路は塵埃です。本年の累積報告数は22例となりました。
- アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例(60歳代男性)(第35週追加報告分)あり、症状は粘血便です。本年の累積報告数は8例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が3例(60歳代男性1例及び70歳代男性2例)ありました。本年の累積報告数は28例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(10歳未満男性)(第35週追加報告分)あり、症状は発熱及び菌血症です。感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は53例となりました。
- 梅毒の報告が1例(30歳代男性)あり、症状は梅毒性バラ疹です。感染地域は国内で、感染経路は性的接触(異性間)です。本年の累積報告数は46例となりました。  
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け、コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見、早期治療が非常に重要です。
- 百日咳の報告が2例(10歳代男性及び10歳未満女性各1例)(いずれも第35週追加報告分)ありました。いずれも感染地域は国内、感染経路は学校です。本年の累積報告数は88例となりました。
- 伝染性紅斑の定点あたり報告数は1.47(63例)で、前週1.19(51例)から増加しました。依然として過去5年平均値及び流行閾値(それ以上報告数が増えたら確率的に非常に多いと考えられる値)を大きく上回っています。京都市全体としては警報レベルとは言えませんが、行政区別で見ると、左京、右京及び伏見各区で警報レベルとなっています。全国でも流行閾値を上回る状態が続いており、今後の発生動向に注意が必要です。

## ◆ 今週のトピックス: <百日咳>

百日咳は平成30年1月1日に小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。本年の京都市の百日咳は第36週で2例の報告があり、累積報告数は88例となり、平成30年の累積報告数の87例を超えました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 4例(肺結核 1例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし  
【1月以降の累積報告数 211例(肺結核 92例, その他結核53例, 潜在性結核感染者 66例)うち喀痰塗抹陽性 44例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 40例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 22例】
- 五類:アメーバ赤痢 1例【1月以降の累積報告数 8例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 28例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 53例】
- 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 46例】
- 五類:百日咳 2例【1月以降の累積報告数 88例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.67	46
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.86	123
	② RSウイルス感染症	1.95	84
	③ 手足口病	1.63	70
	④ 伝染性紅斑	1.47	63
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.19	51
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <百日咳>

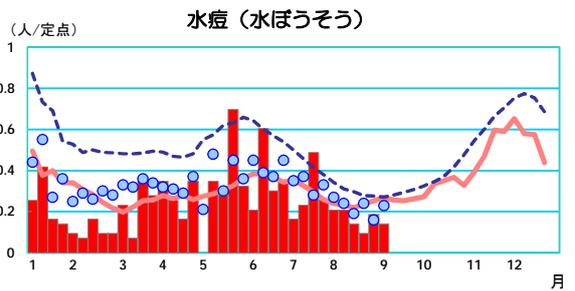
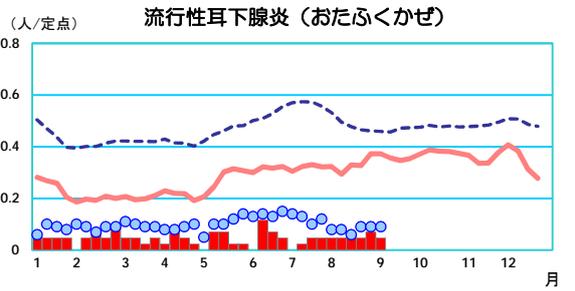
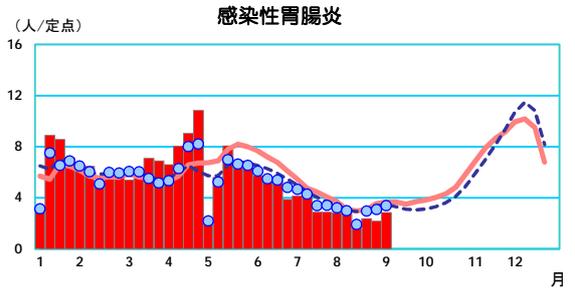
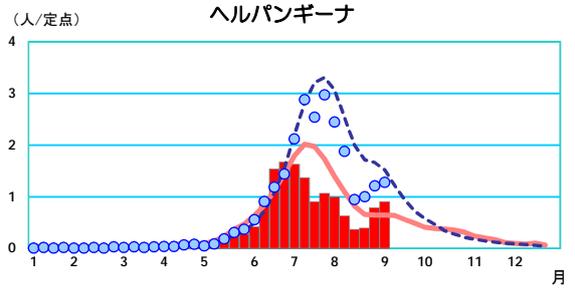
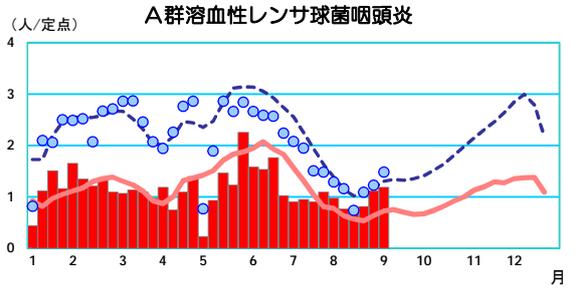
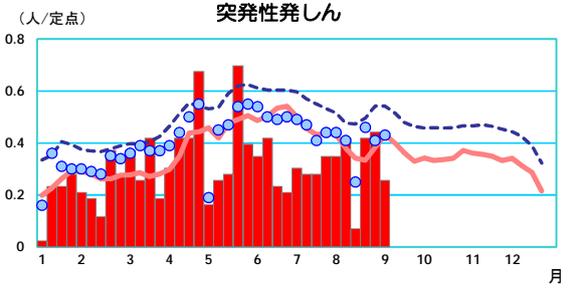
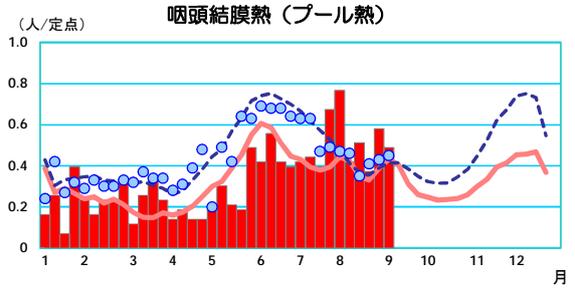
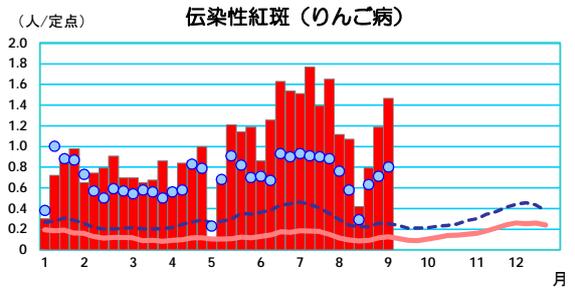
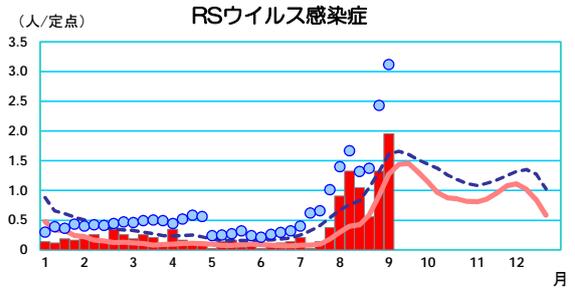
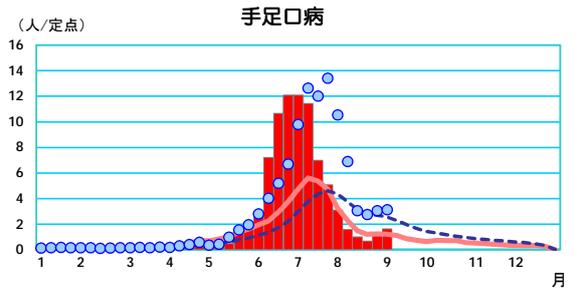
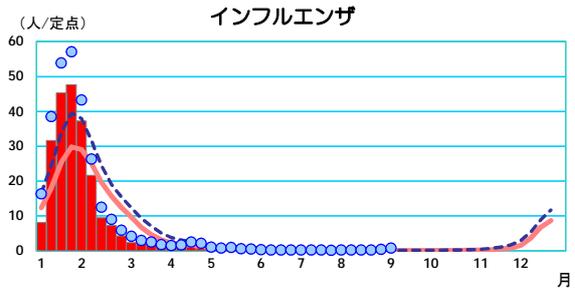
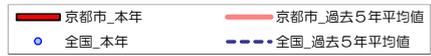
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、2019年9月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2019年）



## 第36週(9月2日～9月8日) トピックス: <百日咳>

百日咳は平成30年1月1日に小児科定点把握疾患から全数把握疾患に変更されました。本年の京都市の百日咳は第36週で2例の報告があり、累積報告数は88例となり、平成30年の累積報告数の87例を超えました。全国でも11,953例で昨年の累積報告数(11,947例)を超えました(表1)。京都市の年齢階級別報告数をみると、0歳 5例、1～4歳 7例、5歳～9歳 35例で、0歳から9歳まで(47例)が全体の約半数を占めています(図1)。感染源は家族内と学校や保育園が78.4%を占め(図2)、学校等で広まったものを家に持ち帰って家族に拡散する構図、あるいはその逆の構図が推測されます。

予防にはワクチン接種が有効ですが、効果は4年から12年で減弱していくといわれ、1歳6ヶ月ごろの定期接種期間が終わると、学童期には減弱し始め、成人になるとワクチンの効果はほとんどなくなるため、ワクチン接種を行っていても感染する可能性があります。罹患者のワクチンの接種歴をみると、確実に接種したと申告のあった患者は81.8%でした(図3)。なお、接種歴がない3例の中には、生後2ヶ月から始まる定期接種の月齢に達していない乳児も含まれています。

成人患者では症状が典型的でなく受診も遅れがちですが、百日咳菌は周囲への感染力が強く、症状が軽くても菌の排出があるため、成人患者が感染源になる場合があります。特に生後2箇月からはじまる予防接種が未接種の新生児・乳児に対しては、周りの人が感染源にならないよう注意しましょう。短い咳が連続する、咳の後に息を吸うとき「ヒュー」と音がする、咳が長引くなどの自覚症状がある場合や、職場や家族など身近にそのような症状の人がいる場合には早めに受診しましょう。

なお、青年・成人期以降の百日咳対策として、平成29年12月に沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン(商品名トリビックス®)の用法及び用量が改訂され、成人への追加免疫の接種が適応になりました。詳細については以下のホームページをご参照ください。

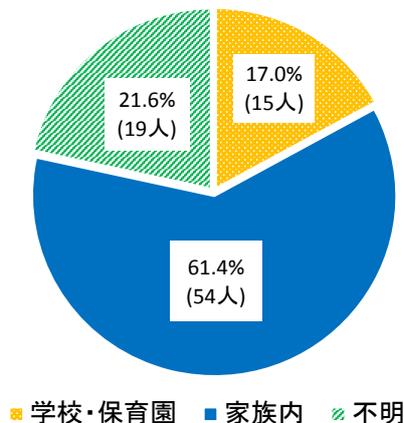
【独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)】

<https://www.pmda.go.jp/PmdaSearch/iyakuDetail/GeneralList/636140BA3>

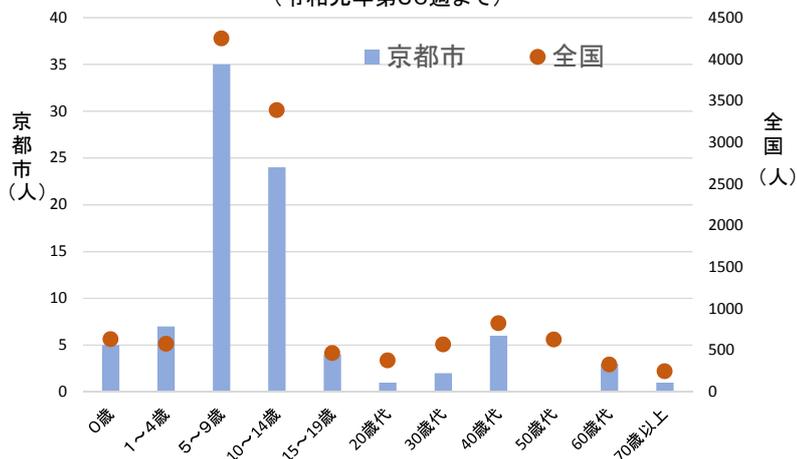
表1 京都市と全国の累積報告数の推移

	累積報告数	
	京都市	全国
H26	7	2,066
H27	13	2,675
H28	10	3,011
H29	8	1,658
H30	87	11,947
R1 (第36週まで)	88	11,953

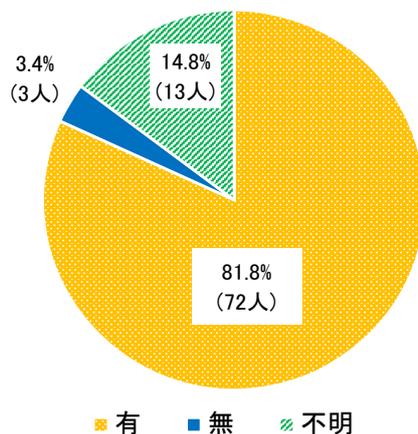
(図2) 京都市の患者の感染源 (n=88)  
(令和元年第36週まで)



(図1) 京都市及び全国の年齢階級別報告数  
(令和元年第36週まで)



(図3) 京都市の患者のワクチン接種歴 (n=88)  
(令和元年第36週まで)



T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第36週

疾病,行政区別報告数

2019年9月2日～2019年9月8日

データ入手日:2019年9月12日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	1	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-	-	2					
上京	-	3	1	-	6	-	2	3	3	-	-	-	-					
左京	27	15	-	4	4	2	14	9	-	2	-	-	-					
中京	2	5	-	1	-	-	6	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	4	5	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	15	-	7	-	2	2	5	1	4	1	-	1					
下京	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	1	5	3	-	3	-	4	1	-	10	-	-	-					
右京	1	13	8	30	12	-	8	11	3	1	1	-	1					
伏見	8	20	9	6	65	1	15	26	2	18	-	-	2					
西京	-	3	-	3	19	1	19	3	1	3	-	-	-					
京都市計	46	84	21	51	123	6	70	63	11	39	2	-	6	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭炎 A群溶血性レンサ球菌咽	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計																		
北	0.14	-	-	-	0.25	-	-	0.75	-	-	-	-	2.00					
上京	-	1.00	0.33	-	2.00	-	0.67	1.00	1.00	-	-	-	-					
左京	3.86	3.75	-	1.00	1.00	0.50	3.50	2.25	-	0.50	-	-	-					
中京	0.40	1.67	-	0.33	-	-	2.00	0.67	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1.33	2.50	-	-	6.50	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	-	3.00	-	1.40	-	0.40	0.40	1.00	0.20	0.80	0.20	-	1.00					
下京	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	0.20	1.67	1.00	-	1.00	-	1.33	0.33	-	3.33	-	-	-					
右京	0.13	2.60	1.60	6.00	2.40	-	1.60	2.20	0.60	0.20	0.20	-	1.00					
伏見	0.73	2.86	1.29	0.86	9.29	0.14	2.14	3.71	0.29	2.57	-	-	1.00					
西京	-	0.60	-	0.60	3.80	0.20	3.80	0.60	0.20	0.60	-	-	-					
京都市計	0.67	1.95	0.49	1.19	2.86	0.14	1.63	1.47	0.26	0.91	0.05	-	0.60	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第36週

年齢階級, 疾病別報告数

2019年9月2日～2019年9月8日

データ入手日:2019年9月12日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	46	-	-	4	1	3	1	7	6	1	4	-	4	2	2	3	3	1	-	2	2
RSウイルス感染症	年齢3	84	8	19	39	8	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		21	-	2	2	2	4	2	3	4	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51	1	3	1	4	5	9	6	5	3	5	1	4	-	4	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		123	2	10	13	17	26	10	8	6	1	7	6	7	7	3	-	-	-	-	-	-
水痘		6	-	-	-	-	1	1	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		70	2	8	16	10	11	7	8	3	2	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		63	-	-	8	7	8	12	9	9	3	3	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		11	-	1	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		39	1	2	10	9	10	4	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		6	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	2	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.67	-	-	0.06	0.01	0.04	0.01	0.10	0.09	0.01	0.06	-	0.06	0.03	0.03	0.04	0.04	0.01	-	0.03	0.03
RSウイルス感染症	年齢3	1.95	0.19	0.44	0.91	0.19	0.16	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.49	-	0.05	0.05	0.05	0.09	0.05	0.07	0.09	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.19	0.02	0.07	0.02	0.09	0.12	0.21	0.14	0.12	0.07	0.12	0.02	0.09	-	0.09	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.86	0.05	0.23	0.30	0.40	0.60	0.23	0.19	0.14	0.02	0.16	0.14	0.16	0.16	0.07	-	-	-	-	-	-
水痘		0.14	-	-	-	-	0.02	0.02	0.05	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		1.63	0.05	0.19	0.37	0.23	0.26	0.16	0.19	0.07	0.05	0.02	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		1.47	-	-	0.19	0.16	0.19	0.28	0.21	0.21	0.07	0.07	0.05	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.26	-	0.02	0.16	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.91	0.02	0.05	0.23	0.21	0.23	0.09	0.05	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.05	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.60	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	0.10	0.10	0.20	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2019年第36週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2019年9月12日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	12	10	10	5	6	46
RSウイルス感染症	39	58	45	24	57	84
咽頭結膜熱	33	25	22	16	25	21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	37	31	35	48	51
感染性胃腸炎	122	135	73	102	94	123
水痘	9	9	6	4	8	6
手足口病	133	79	43	29	47	70
伝染性紅斑	48	49	18	34	51	63
突発性発しん	15	21	3	18	19	11
ヘルパンギーナ	43	29	16	17	34	39
流行性耳下腺炎	2	2	2	2	3	2
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	3	-	7	6	6
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	505	457	269	293	398	522

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	0.17	0.14	0.14	0.07	0.09	0.67
RSウイルス感染症	0.91	1.35	1.05	0.56	1.33	1.95
咽頭結膜熱	0.77	0.58	0.51	0.37	0.58	0.49
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	0.86	0.72	0.81	1.12	1.19
感染性胃腸炎	2.84	3.14	1.70	2.37	2.19	2.86
水痘	0.21	0.21	0.14	0.09	0.19	0.14
手足口病	3.09	1.84	1.00	0.67	1.09	1.63
伝染性紅斑	1.12	1.14	0.42	0.79	1.19	1.47
突発性発しん	0.35	0.49	0.07	0.42	0.44	0.26
ヘルパンギーナ	1.00	0.67	0.37	0.40	0.79	0.91
流行性耳下腺炎	0.05	0.05	0.05	0.05	0.07	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.70	0.30	-	0.70	0.60	0.60
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	12.18	10.77	6.17	7.31	9.66	12.20

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。